

日本労働年鑑 第59集 1989年版  
The Labour Year Book of Japan 1989

第三部 労働組合の組織と運動

II 労働組合全国組織の動向

3 新産別

新産別は、第四一回定期全国大会を八八年一〇月二五日に開催し、組織の解散を決定した。これによって、一九四九年の結成以来三九年(前身の産別民主化同盟以来四〇年)の歴史を閉じた。

委員長あいさつ、組織解散の意義を強調

河合明博中央執行委員長は、大会の冒頭にあいさつし、「総評が全体の統一時期の目標と、自らの解散を一年繰り上げたことに見られるように、いっそう、統一への動きが加速した」と指摘。「組織を賭して統一を促進するという昨年大会における私たちの決断が、労働戦線統一の進展に大きく貢献したことは疑いない」と、新産別解散の意義を強調した。

同時に、「すべてが手放しで喜べる状況かといえばそうではない」とのべ、「自分の考えや行動のみが正しくて、反対意見の存在を許容しないというのでは、民主主義とはいえない」と、左派勢力をかかえている総評官公労との統一に難色を示す友愛会議系の意見に疑問を投げかけた。また、「あえてこれに乗らない組織は論外である」と統一労組懇や左派の動きをきびしく批判した。このあと、細谷、三戸顧問があいさつした。

組織解散を決定

議事では、まず一九八八年度会計報告・同監査報告を承認した。  
第一号議案「清算委員会の設置に関する件」によって、河合明博中央執行委員長ら九名から構成される「残務処理および清算事務の一切についての責任を負う」清算委員会を設置した。

また、第二号議案「『新産別文庫』設置に関する件」によって、新産別がこれまで発刊してきた各種の書籍・パンフレット、発行文書など諸資料と書籍を、愛知県西春日井郡新川町須ヶ口の豊和厚生会館(豊和労組所在地)に「新産別文庫」として所蔵することを決定した。

そして、「規約第五五条の規程により、本大会をもって新産別の発展的解散を行うことを確認する」とした第三号議案「新産別の発展的解散の件」と、「今日まで、新産別運動のなかで培ってきた精神と、運動の実績を糧に、わが国労働運動の再生のため、発展的解散を確認すると同時に、新たな挑戦を開始する」とした「新産別の発展的解散の決議」をおこなった。

解散決議が新産別の求めてきた労働運動の自立と民主化に「現状はほど遠い」と指摘していることから、「『連合』や来秋発足予定の新しいナショナル・センターへ、どの程度、継承できるか。継承できるのが『反共産党』の姿勢だけだとしたら、不本意さを残す解散ともなりかねない」(『朝日新聞』八八年一〇月二六日付)という論評もあらわれた。

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑第59集【目次】 次のページ→ ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---